

長岡市長賞

税について知ったこと、感じたこと

長岡市立東北中学校

三年 長井 美羽

「税金って、こんなに引かれているのか。」

母は毎年、源泉徴収を見ながら決まっています。そして、「まあ、私達の暮らしに役立っているなら納税は国民の義務だから、良いんだけどね。」と続けます。

この作文をきっかけに、「税」ってひと言で表すけれど、どんな種類のものがあるのか少し調べてみました。

身近なところでは消費税。母の給料にかかる所得税。企業が納める法人税。新車を購入する際には自動車重量税というものがかかり、ガソリン税、たばこ税、酒税など私たちが支払う価格の中に既に含まれていて、企業が納める形態の税金もありました。

納税先も国、都道府県、市町村など税の種類によって異なるそうです。

少し調べただけでもこれだけの内容を知ることができましたが、税の使い道や仕組み等、知れば知る程に奥深いのだろうと思います。

私は中学生なので仕事をしてお金を稼ぐという事はありませんが、母からもらう毎月のお小遣いで買い物をする事があります。その時に必ず消費税を支払いますが、「私も小さな納

税者と言っているのかな？」と感じました。

税というものは支払う⇨徴収される⇨取られる、というイメージを持たれがちです。少し視点を変えて、「国民の暮らし」に対し、様々な形で還元されてくるその源である、と捉えてみると、納税は非常に意味のある「国民の三大義務のひとつ」であるのだと認識できるのでしょうか。また、還元された側の私達が、再び税を納めることで国民の生活の中で「循環」が生まれているという考えもできると思いました。

税によって、教育を受けたり、様々な行政サービスを受け入れることができていることは、今回の作文を書くにおいて調べた内容を結びつけていくと、とても理解ができます。

徴収というのはよりよい豊かな国民生活を運営するための重要な財源であります。

しかしながら調べ進めていくにつれ、現在そして今後の日本というのは、その「財源確保」も容易ではなくなってきたつあるということも分かりました。それは「少子高齢化」社会であるということ。医療の進歩とサービスの拡充の恩恵による長寿社会。非常にゆつくりではあるけれど、女性の社会進出による晩婚化、それに伴う生涯出生率の低下等による少子化。両方が相まって、支える側（若手、働き世代）の減少は、主として納税する世代の減少につながり、このままの仕組みのままであると、今と同じ水準での国民生活の維持は厳しくなっていくかもしれせん。

豊かに穏やかに生活したいと願う人は多いと思います。そのためには今後の日本の状況に合う仕組み作りはとても重要だと思えます。これから納税していく世代として、より良い税運用を望みます。